令和７年度　（４月１日版）

学校経営計画



「主体的に考え行動し、共に学ぶ、

おもいやりと笑顔あふれる学校」を目指して

八王子市立打越中学校

校長　三浦　壮次

**令和７年度　学校経営計画**

八王子市立打越中学校

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長　三浦　壮次

八王子市の教育目標に基づき、これからの変化の激しいグローバル社会を生き抜く子供たちのよりよい教育を求めた学校経営を推進する。そして、生徒一人一人の可能性を十分に引き出し、伸ばすことができるように職員一同がチームとして教育活動にあたり、保護者・地域からさらに信頼される学校づくりを目指す。

１　八王子市教育委員会教育目標

『あふれる元気・かがやく心・仲間とともに・はばたけ未来へ』

学校教育と社会教育の密接な連携のもと、子供たちが、自分らしさを発揮し、未来に対して夢をもって生きることのできる社会と、すべての市民が生涯にわたって心豊かな人生を送るための生涯学習社会の実現を目指し、以下の教育目標に基づき、積極的に教育行政の推進を図る。

子供たちが、知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願い社会に貢献できる人間の育成に向けた教育を推進する。

○「あふれる元気」＜健康な心身・活力＞

心身ともに健康で、生き生きとした人

○「かがやく心」＜豊かな知性と感性･個性＞

自ら学び考え、知性と感性を高めようとする人

○「仲間とともに」＜協調性・社会性＞

互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人

○「はばたけ未来へ」＜意欲・積極性＞

積極的に自分を高め、社会の向上に貢献しようとする人

２　打越中学校教育目標

ものごとを正しく判断し、自分から進んで行動する人になるために

◎よく考え、たしかな知識を身につけよう。　　　（知）

○たがいに協力し、思いやりのある人になろう。　（徳）

○健康なからだをつくり、働くよろこびをもとう。（体）

　　　教育目標を受けた特別支援学級の目標

　　　　　・身辺自立、基本的生活習慣の確立を図る。

　　　　　・自立に向けて必要な生きる力を養う。

　　　　　・心身ともに健康で、他を尊重し、情操豊かな人間性を培う。

**３　目指す生徒像**

　『誇れる上級生・学ぶ下級生』

　　　・共に学ぶ、主体的に取り組む生徒

　　　・自他を尊重し、思いやりと感謝の心を持った想像力豊かな生徒

　　　・学校・地域・グローバル社会に貢献する生徒

**４　目指す学校像**

　　　『主体的に考え行動し、共に学ぶ、思いやりと笑顔あふれる学校』

**５　目指す教職員像**

　　　・生徒の学びに向かう力や一人一人の能力を最大限に引き出す教師

・生徒の心情に共感・理解し、生徒の自己指導能力を育成する教師

・創造性と柔軟性をもち、学び続ける人間性豊かな教師

・多様な考えをもつ人材と協働して成果を出すことができる教師

・「チーム打中」の一員（当事者）として、チームワーク（行動連携）・フットワーク（現場主義）・ネットワーク（情報共有）を意識した行動を大事にする教師

　　　・体罰等の服務事故の根絶を図る教育公務員としての自覚と責任感をもつ教職員

　　　※　「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」の向上を図り、優れた指導技術や実践を他の教職員に普及し、学校全体に反映する。

※　「報告・連絡・相談」により盤石な学校組織となる。一人で抱え込むことなく、迅速な解決に向けて協力して組織で対応する。

**６　学校経営の基本方針**

通常学級、特別支援学級、日本語通級学級の生徒が一つの学校で学ぶという本校の特色を生かし多様性の尊重と「インクルーシブ」教育を推進し、地域社会やグローバル社会で活躍できる主体性と社会性を育成する。また、他者との「対話」を通して協働し「共に学ぶ思いやりと笑顔あふれる学校」を目指す。学力・体力の向上とともに自己肯定感や自己効力感を高め、いじめ等の問題行動に向かわない生徒を育むために「互いを認め、支え、高め合う集団づくり」を行う。日々の「学び合い」の学習形態や本校の生活指導の基本である「あいさつ」「時間」「責任ある行動」の継続的な指導や支援、目標を意識した活動、校内外の「ボランティア活動」を通して、「温かい人と人とのつながり」と「ルールとマナー」、「チャレンジ精神」、「社会貢献の意識」等を学級、学年、学校全体に浸透させていく。

**７　中・長期的目標**

（１） よく考え、たしかな知識を身につけよう

◎学び合う授業づくりとICTの効果的・効率的な活用を通し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで生徒の主体的な学びにつなげる研修を充実させる。

◎基礎学力の定着とともに、課題解決力を身につけた生徒を育成する。

・思考力、判断力、表現力を身につけ深く学び合う生徒を育成する。

・家庭学習・読書の習慣をつけ、自ら学ぼうとする生徒を育成する。

（２） たがいに協力し、思いやりのある人になろう

〇互いのよさや可能性を認め合い、互いに支え合い、共に向上心をもって取り組む生徒を

育成する。（多様性の尊重とインクルーシブ教育の充実）

◎対話を通して合意形成を図り、問題を解決する力を培う。

・明るく、前向きな挨拶ができる生徒の育成に地域と共に取り組む。

・社会のルール、公衆道徳やマナーをしっかり守ることのできる生徒を育成する。

・相手の立場に立って物事を考え想像し、行動できる生徒を育成する。

・学校行事に積極的に参加し、仲間とともに達成感を感じられる生徒を育成する。

（３）健康なからだをつくり、働くよろこびをもとう

○夢の実現や自らが立てた目標達成のためにあきらめぜ挑戦する生徒を育成する。

○仲間と協力して最後まであきらめずにやりとげる生徒を育成する。

◎ボランティア精神を持ち、ボランティア活動に参加する生徒や地域の一員としての自覚をもち、進んで地域社会に貢献できる人間になろうとする生徒を育成する。

・自分の健康を考え、体力の向上と気力の充実を目指そうと生徒を育成する。

**８　今年度の指導の重点**

本校の３つの教育目標をそれぞれ**「自立（自分づくり）」「尊重（仲間づくり）」「貢献（社会づくり）」**というスローガンとして各教科や特別活動、行事等で目標を設定し、指導の工夫と実践を図り、生徒の**主体性と社会性**を育成する。

1. これまでの取り組みを生かした「学び合い」と昨年度の八王子市の「GIGAスクール研究推進校」としての成果を活かしたICTの効果的・効率的な活用による主体的に学習に取り組む態度を育成する魅力ある授業づくり
* 各教科において、学び合いの授業形態やICT（学習用端末等）の効果的・効率的な活用を通して個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目標に、生徒の「学びに向かう力」を育成する授業改善を行う。
* 「基礎学力コンテスト」の実施や積極的に放課後自習教室、定期考査前や面談期間中に補習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。

・各教科で学び合いを行う基盤となる基礎学力定着のための取り組みの充実を図る。

・ 課題解決力の育成を目指し対話等の言語活動を積極的に取り入れ、話し合い、考えを深めまとめさせ、発表させる機会を単元の中に設ける。

・基礎学力の定着と規範意識の育成のために、小中学校で連携し、連続性をもった指導の充実を図るために、「学力定着プロジェクト」を実施する。

・落ち着いた学習環境と主体的な学習習慣作りのために朝読書等を実施する。

・ 教師の授業力を向上させるため、全教員が研究授業を行い、年３回の授業研究協議会を持

ち、授業改善に取り組む。

・ 家庭と連携しながら家庭学習の充実と習慣化を図る。

1. 人権を尊重し互いの良さや違い（多様性）を認め合う温かい人間関係と規範意識醸成

◎多様性の尊重と 特別支援学級、日本語指導学級の生徒と通常学級生徒の交流活動を積極的に行い、インクルーシブ教育を充実させる。

◎何事にも前向きに挑戦し、明るい学校生活を生徒に送らせるために、『誇れる上級生・学ぶ下級生』をスローガンに、学級活動や学校・学年行事、生徒会活動、委員会活動や部活動等でやりがい、達成感をもたせ、生徒の自己肯定感と自己効力感の向上を図る。（生徒主体のあいさつ・ボランティア活動や生徒会によるキャンペーン等）

◎道徳（全教員ローテーション）や特別活動等において、対話、議論を通して問題解決する力の育成を図る。

〇一人ひとりの不登校生徒の状況と支援ニーズを毎週実施する「支援会議」において的確に把握し、組織的な対応を検討した上で最適な相談・指導につなぎ、社会で生きていく力を育成する。また、積極的なＱＵ結果の分析とそれに基づく対応策を実施することで生徒の生活指導上の課題の未然防止や早期発見、早期解決につなげる。

〇丁寧な生徒理解のもと、生徒の自己指導能力の育成を目標に生徒の人権を大切にする温かい指導を行う。

〇あいさつの励行と思いやりと感謝の心（気持ち）を大事にする生徒を育成する。

〇「生命（いのち）の安全教育」を推進し、自他の生命尊重の精神を涵養する。

〇「学校いじめ対策委員会」を毎週実施し、学校全体で生徒の情報をきめ細やかに共有し、早期発見、保護者や関係機関と連携しながら早期解決を図る。また、未然防止のために道徳や特別活動、基礎学力定着のための指導内容の充実を図り、いじめゼロの学級・学年・学校を目指

す。さらに、「打越中学校グループサミット」を実施し、学区の小学校と連携したいじめ防止の取組を充実させる。

　【全体会】情報共有・研修会（全教職員）

　【週１回定例】（１）定例会議・・・管理職・生活指導主任・学年・学級主任・養護教諭、

　　　　　　　　　　　ＳＣ等

　　　　　　　　（２）いじめ未然防止の３本柱「規律・学力・自己肯定感」育成の取組

　　　　　　　　　・道徳・特別活動（指導案作成等）

　　　　　　　　　・「学び合い」による授業形態（指導案作成等）

　　　　　　　　　・「基礎学力定着」（「基礎学力コンテスト」、放課後自習教室の実施等）

　　　　　　　　（３）個別対応・・・いじめ・不登校にかかわる生徒・保護者個別対応、

　　　　　　　　　　　　　　　　　　資料作成と整理

（３）地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の醸成＞

＜青少年対策由井東地区委員会との連携を軸に＞

◎小中、地域連携推進委員会を設置し、積極的に地域行事、ボランティア活動に参加を促し、生徒の「ボランティアマインド」を醸成する。・生徒が地域で活躍し貢献する場や、地域の方々との関わりの中から学ぶ機会を増やす。

・より地域から信頼される学校を目指し、教職員の地域行事への積極的な参加を推進する。

・学校を開き、より多くの地域の方々に本校の現状を見ていただき、理解と協力を得る。

・放課後自主教室、英検・漢検・数検を実施、授業内個別支援体制への協力を得る。

（４）八王子市の部活動改革を踏まえた部活動改革の推進

◎令和6年度に作成した「打越中部活動改革ロードマップ」に基づき、令和9年度の完全実施に向け、中長期的な視点をもって、保護者の理解と地域との連携を図りながら、令和7年度より計画的に改革を進める。

・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。

・部活動を通しての「人間形成」を意識し、顧問と生徒の信頼関係のもとに活動を行う。

（５）小中一貫した共通スタンダートの実践

・義務教育修了段階において育成するべき生徒像を「社会の形成者となるためにものごとを正しく判断し、自ら進んで行動する人」とし、共通スタンダートを実践する。

|  |  |
| --- | --- |
|  | **小１**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**小６　中１**　　　　　　　　　**中３** |
| 【知】言語力育成自学自習 | 学び合いの授業　　話を聴こう　・　伝え合おう　読書活動の推進　　　　　　　　　　　　　　　　　　年３回の読書月間 |
| （学年×１０分＋アルファ）　　　　　　　　　　　　資格試験に挑戦（学運協主催）宿題をする　　　　　　　　　計画的に学習する　　　　　将来を見据えて学習をする |
| 【徳】あいさつ | あいさつ運動　毎月８日はあいさつ運動（青少対策由井東地区委員会）大きな声で（状況により会釈）　　何度でも　　自分から　　心をこめて　　誰にでも |
| 【体】心と体 | 授業　保護者会・学校だより・学年だより・学校HPで啓発早寝　・　早起き　・　朝ごはん　　　　　　　　　　授業　セーフティ教室　　　SNSトラブル防止（被害と加害・ゲーム依存による昼夜逆転） |
| 特別支援教育の充実切れ目のない外部関係機関との連携（SSW、子家セン、市教育センター、医療、放課後デイ、無料塾、民生児童委員等） |

　　〇３回「小中一貫教育の日」授業交流・研究

　〇６年生の中学校授業体験・施設見学・生徒会による学校紹介、行事等の参観

〇中学生による小学校行事等へのお手伝い

〇小学生の中学校の部活動参加（女子バレー部等）

〇小中合同引き渡し訓練の実施

（６）教育環境の整備

・全校一斉清掃により校内清掃班活動の徹底と充実図る。美化推進週間、昇降口整頓を規範意識へもつなげる。

・丁寧な教室環境整備、共用スペース掲示物整美を行う。また、学校運営協議会やPTAを中心に保護者・地域と連携した環境整備（校内ボランティア活動）を行う。

（７）オリンピック・パラリンピック教育レガシーの推進

・オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校として、国際理解・ボランティア精神の育成に取組む。

（８）ホームページ、デジタルサイネージによる発信、校務の効率化による教員の「働き方改革」の推進

・経営支援部とICT支援委員会との連携によるホームページ、デジタルサイネージによる情報発信、保護者へのWEB配信を推進する。

・会議等の校務の効率化をめざし、校務支援システムの円滑な運用、情報機器の活用を推進し、教員の業務軽減につなげる。

* 以上、本経営計画は、実施状況に応じて改善・修正を行う。